

日野原重明先生による「いのちの授業」掲載記事

99歳日野原さん「命」伝える 神戸朝刊
 関学初等部 5年生に授業 11/6/23

「命」をテーマに、独自の授業を展開する日野原さん。関西学院初等部



ミリオンスター「生きせたり、その場で答えかた上手」で知られる聖せたりして、積極的にコ路加国際病院（東京都）コミュニケーションを図る理事長で、関西学院OBた。

日野原重明さん(99)が22日、同学院初等部(宝塚市武庫川町)で「命」をテーマに授業をした。5年生約90人を前に約1時間、座ることなく動き回り、学ぶ喜びや命の大切さを説いた。

旧制の関西学院中学位を卒業した日野原さんは、この日、算数や地理、英語などの問題を出し、手を挙げた児童を次々と指名。壇上呼び寄

方を見て「時間も命も見えない、さわれない。どう使うかが大事」と強調。人間の心臓の大きさや、脈の速さについて解説しながら、児童たちに命の重みを考えさせた。

藤岡大翔君(10)は「今まで生きることに何とも考えずいたけど、授業を受けて感謝しようと思ったと話していた。」

(上杉順子)

6月23日(木) 神戸新聞朝刊より抜粋

99歳から小5へ「いのちの授業」 朝日朝刊
 日野原さん、母校関学で 11/6/23

聖路加国際病院(東京都中央区)理事長の日野原重明さん(99)が22日、宝塚市武庫川町の関西学院初等部で5年生90人に「いのちの授業」をした。日野原さんは旧制の関西学院中学位の卒業生で同学院が招待した。

日野原さんは「あと3カ月で100歳になります」と自己紹介。子どもらに聴診器を使わせたり、英語で「お元気ですか」とあいさつを交わしたりした。途中、インドについて触れ、「日本の人口くらいの方がエリート層。きっと世界一の国になる。みんなも英語も話せるように勉強して」と訴えた。また、「人のために何かするかが大切。自分の時間を誰かのためにどう使うかを考え、実行することが生きるということ」と強調していた。(谷辺晃子)

「自分の心臓はどれくらい大きいですか」と子どもたちに問う日野原さん。宝塚市武庫川町



6月23日(木) 朝日新聞朝刊より抜粋